

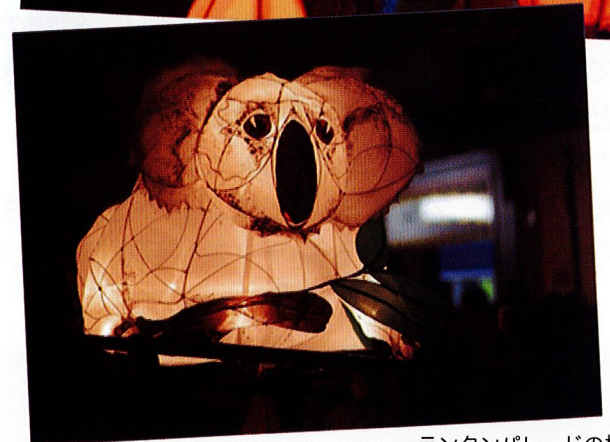
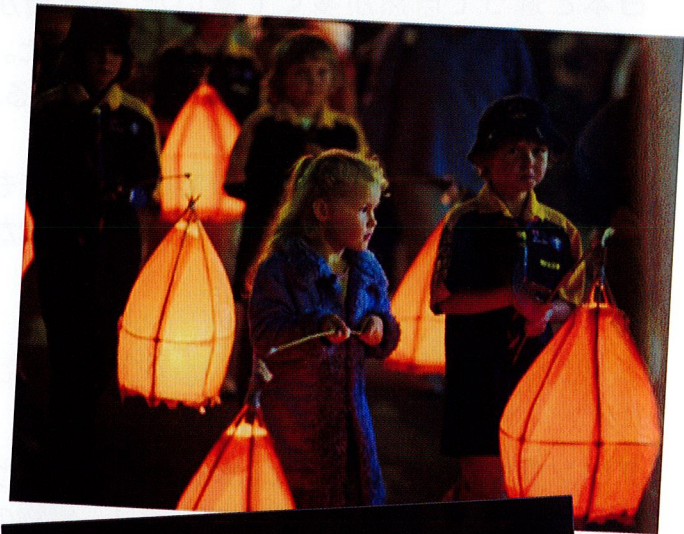
このバンブーシューツ（筍）が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように



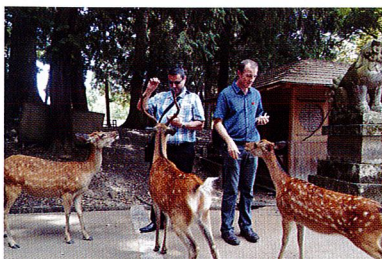
リズモー市長来訪

オーストラリア・リズモー市のアイザック・スミス市長、デニス・スミス夫人、御息女のアンバー・スミスさん、ニール・マークス市議会議員の4名が大和高田市を訪問されました。アイザック市長は、長崎県で行われた「平和首長会議」に出席され、その後、8月11日から14日まで本市を訪れました。奈良東大寺の見学や、歓迎夕食会、市民交流センターでの文化活動団体との交流を行いました。

8月14日には、協会役員との会談を行いました。平成30年に55周年を迎える姉妹都市交流事業についてアイザック市長は、毎年6月にリズモー市で開催する「ランタンパレード」に、大和高田市の皆さんに来ていただきたいとの考えを話しました。



ランタンパレードの様子



リズモー市への派遣学生



川で遊んだりして、日本ではあまり感じられない自然と触れ合えた。

・バイロンベイ、海の水はとても綺麗だった。野生のイルカがいて、驚いた。

1) リズモー市の街を見て感じたことは？

・ダウンタウンは比較的、車や人で賑わっているが、少し街を離れると自然が豊かで、辺り一面が緑一杯で農場があり、あらゆるところに牛やヤギがいて、過ごしやすい静かな街だと感じた。

・お店は、たくさんあるけど人は少なく、静かで、歩いている人は、イケメンと美女ばかりだった。

・街の中心部はとても発展していて、人がたくさんいたけど、少し離れると自然がいっぱいで牛や羊がゴロゴロ転がっていたこと。その差にとても驚いた。また、信号がとても少ないことも印象的だった。

・日本と違って自然が多くて驚いた。飛行機からオーストラリアを見たときに緑が多いと思った。

・すごく綺麗な街で、リズモー市のマークである、♥(ハート)がたくさんあった。

・日本と家と家の間の広さが違って、とても広く感じた。自然が多く公園(広場)のような緑地がたくさんあった。

2) 観光して良かった場所、印象に残った場所は？

・ダウンタウンを歩いたこと。水害で被害を受けた跡形が未だ残っていて、一部の地域では、建物の2階まで浸水したことを聞いて、何か自分にもできないことはないかと、考えさせられた。

・バイロンベイ、Sky point tower、Ninbin

・週末も含めて、4回海を見て嬉しかった。舗装されていないような道のある森の中をドライブしたり、

3) 文化・習慣の違いに驚いたことは？

1、生活について(不便だったことや、困ったこと、また日本より良いと思ったこと)

・洗濯が3~4日に一回の程度で、個人的には1~2日でしてもらいたかったけど、滞在先のファミリーに合わせて洗濯したこと。道路の工夫が良いと思ったこと(信号がない)。

・日本よりも、通りすがりの人が笑顔で目を合わせてくれて、挨拶してくれること。市の面積が高田よりも広いので、市役所まで遠かったこと。

・シャワーがとても短く浴槽がなかったこと。信号がなく、道路を横切るのが怖かった。空気がとても綺麗だった。

・夕食が5~6時で、とても早かった。自分で学校に行かなくても、親が送り迎えしてくれる。

・お風呂がすごく大変で、シャワーで5~7分くらいでと言われ、毎日急いで洗っていた。

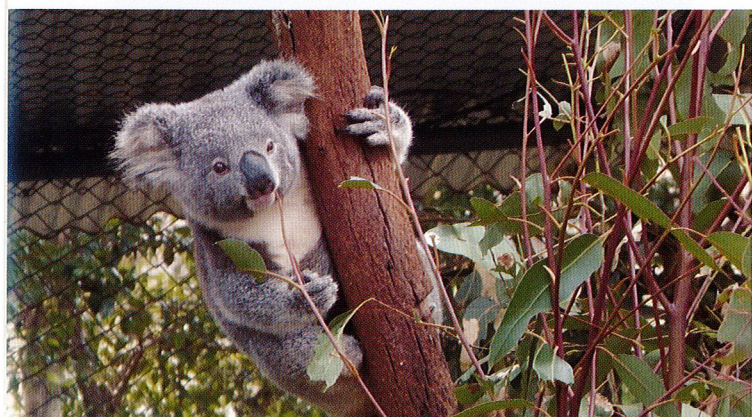
・道行く顔見知りでない人たちも「Hello!」「How are you?」など、明るく接してくれたのが、とても気持ち良かった。時間にすごくアバウトで、ちょっと困った時もあった。冬でも海に入れる位、気候が暖かくて過ごしやすかった。

2、学校について(現地の学生との交流・学校生活の違い)

・学生はとにかくリラックスしていて、授業中に関係のない話をしたり、携帯を触っている学生もいた一方で、積極的に発言をしたり、自由に発言をする学生も多く、面白かった。

・学生たちは、口々に話したり、歩き回ったりしていた。勉強に対して日本より意欲がある。

・とても積極的に手を挙げたり、発言したり、質問していた。また、学校の中ですれ違った生徒の中には「こんにちは」と日本語で話しかけてくれる子もいた。



三・引率教諭へのアンケート



・一人一人がとても活発で、のびのびしていた。自分の意思をはっきり言う生徒が多くて、すごいと思った。

・日本にない授業があり、とても楽しかった。特に、体を使った授業が一番楽しくて印象に残っている。

・授業も日本とは異なり、ほとんどがディスカッション型の授業で、話し合っている声がずっと聞こえて賑やかだった。

4) ホストファミリーと一緒に過ごして印象に残ったことは？

・空手道場で一緒に空手をしたり、ジムに行ってトレーニングをしたり、夜ご飯は毎晩のようにBBQをしたりして、最後に映画を鑑賞するといった毎日を過ごさせてもらったこと。いろいろなビーチに連れて行ってもらったことが印象的です。

・外に出るより、家の中で話したり、折り紙をしたりする方が楽しかった。

・とにかく優しい人たちだった。留学中に誕生日を迎えたので、パーティーを開いてくれたり、音楽が好きだったので、一緒に楽器を演奏してくれたりした。

・私たちのために、ゆっくり話してくれたり、楽しませようとしてくれたり、とにかく優しくかった。バイオリンを弾いたり、海に入ったり、日本ではできないようなことがたくさん出来た。

・最初は靴を履いての生活だと思っていたが、靴を脱いでの生活をしていたので、日本と同じだと思った。過ごしていく中で、日本語をたくさん覚えてくれたので、嬉しかった。

・毎日、家族みんな起きる時間が違ったり、寝る時間が違ったりと、生活リズムが決まっていなかった。バイロンベイやアクティビティなサファリパークなど、刺激的な所が楽しかった。

5) スカイプ交流に参加して思ったことは？

・少し聞きづらい時が多かったが、通訳の人が入ってくれたり、お互いの顔を見るだけでも大きいことだと思うので、交流を深めるための良い取り組みだと感じた。

・久しぶりに日本語の会話を聞いてホッとした。

・スピーチはすごく緊張したが、終わった後に「すごく上手だったよ！」と言ってもらえたので、頑張っていた良かったと思った。

・英語に敬語表現というものはなく、丁寧な表現だけだったので、スカイプで市長さんの言っていた事も聞き取ることが出来た。

6) 今回の経験をこれからの将来にどう活かしていきたいですか？

・価値観や考え方が変わったので、改めて日本での生活をもう一度見直していきたい。そして、この経験をいろんな人に知ってもらいたいです。

・リズモー市に行ったほうが良いと、高田市の学生に言いたい。コミュニケーションをとることが全てだと思うので、身振り手振りや表情をつけて話していく。

・失敗を恐れずに自分からどんどん挑戦していき、色々なチャンスを掴んでいきたいです！

・将来仕事で活かしたい！日本で道に迷っている外国の方がいたら、英語を使って助けたい！

・今回の経験で私は夢を見つける事が出来ました。将来の夢を追いかけの中で壁にぶつかった時、この経験を思い出し、一つでも夢を叶えるように活かしたいです。

・今回の二週間の経験は活かすというよりも、自分の一部として勝手に生きてくる、そんなとても貴重な経験でした。



リズモー市を訪ねて



高田西中学校
福岡 彬 教諭

今回、姉妹都市リズモー市への引率をさせてもらった理由は、自分自身が留学をした時にホームステイをした経験があるので、外国の地でホームステイをする学生にアドバイスするなど、何か自分の経験を活かすことができるのではないかと考えたからです。実際に引率した学

生5名は、個性豊かで、初めから楽しみに思える、元気で和気藹々とした高校生たちでした。

オーストラリアに着くと、ゴールドコーストからリズモー市まで、約1時間ワゴンバスに乗せてもらいました。バスに乗り始めた当初は自然豊かだな、学生たちは楽しんでくれるかな、楽しみだな、と思いを弾ませていました。しかし、感想は本当に苦しかったです。というのも、道幅は大きいのですが、まっすぐの道ではなくクネクネで、スピードが速い中で頭が右へ左へ大きく振られました。学生たちも同様に苦しんでいる様子で、旅の始まりは車酔いでした。

さて council に着くと、いきなりジュースやオーストラリア名物のラミントン、Tim Tam、フルーツなどで、もてなしていただきました。オーストラリアのあらゆるところで頂いた Morning tea でした。朝食と昼食の間にまた何かを食べるといのは、新しい文化でした。市長さんや council の方々が迎えてくれました。皆さんが笑顔で一人一人丁寧に挨拶をしてくれたおかげで、私たちの緊張も和らぎました。

その日から、私たちはマッケラさんに学校を含めてリズモーの隅々まで案内をしてもらったり、ランタン

作り、コアラ見学などもさせてもらいました。初日に連れて行ってもらったダウンタウンでは、人で賑わってはいるものの、大きな被害を受けた水害の跡形が店の窓に残っており、水害の被害の大きさを目の当たりにしました。



夕方に各ホームステイファミリーが迎えに来てくれました。皆さん握手やハグで迎えてくれ、学生たちも喜んでいました。それから毎日のように学生たちは、ファミリーとの時間や過ごし方について話をしてくれて、何も不安はなかったように思います。ホームシックが心配だと思っていましたが、帰国する日が近くなるにつれ、帰りたくないと思っていました。毎日があっという間で、半分の1週間が過ぎるのも本当に早かった。それほど濃い2週間を過ごすことができました。それもリズモーの方々の本当の家族のように過ごしてくれる温かさや、人柄のおかげだと思います。自分自身もファミリーのキャメロンに本当に良くしてもらいました。感謝しかないです。

リズモーにおいて、異文化に触れたり様々なことを学ぶ一方で、折り紙やお茶、そして浴衣など日本の文化や大和高田市の魅力について伝えて帰ってきました。長く続く姉妹都市同士の交換留学ということで、お互いの都市を繋ぐ架け橋になれて、本当に光栄です。一人でも多くの人々に、リズモーの魅力を感じてもらえるように、この経験を語り伝えていきたいと思いません。ありがとうございました。

